

Plan

事業名	幼児ことばの教室			事業類型	ソフト	実施計画	○	区分	継続
予算科目	一般会計	10 款	1 項		3 目	事業1	318	事業2	492
担当部署	部	教育委員会事務局			課	幼児教育課			
総合計画体系	めざすまちの姿	1 ひとが育つまち			基本計画	1-③子どもの可能性を伸ばす			
事業の目的	就学までに教室の指導を通し、言葉の発達や吃音等軽度の遅れのある幼児の障害の軽減を図る。								
事業の概要	岡崎幼稚園及び子育て支援センターを会場として比較的軽度の言語障害がある3～5歳児を対象に、専門指導員が指導する。								

Do

事務事業評価

平成29年度	事業実績	事業費(千円)		当初予算額	決算額
		岡崎幼稚園及び子育て支援センターに「ことばの教室」を開設し、市内在住の言葉の発達、吃音などに軽度の遅れのある3～5歳児に指導を行った。 通級園児延べ人数:3歳1人、4歳8人、5歳18人	財源内訳	1,085	0
		国庫支出金	0		0
		県支出金	0		0
		市債	0		0
		その他	0		0
		一般財源	1,107		2,084

Check

成果指標	成果指標名(単位)			H28実績	H29目標	H29実績	H30目標
	退級率 (年長の該当児に改善が見られ、小学校入学後はこの教室に通う必要がなくなる率)			60	66	72	70
事業の評価	判定	判定理由					
	必要性	A	幼児期の早い段階から対応することで改善が見込まれる。				
	有効性	A	発達や障がいの度合いに個人差があるため小学校入学までに改善されない園児もあるが、改善効果は大きい。				
	効率性	A	ほぼ人件費のみで効果を出している。				
総合評価	A	ニーズがあるため、今後、指導員や教室を増加させる可能性がある。					

Action

今後の方針	内容
事業費 維持	ニーズがあり、退級率も高く、効果的な事業である。

実施計画

年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容	相談員の市内幼稚園・保育園・こども園への巡回相談 1人につき45分間の言語指導。 岡崎幼稚園:市内在住幼稚園児対象・週1回通級 支援センター:市内在住保育園児対象・隔週通級	相談員の市内幼稚園・保育園・こども園への巡回相談 1人につき45分間の言語指導。 岡崎幼稚園:市内在住幼稚園児対象・週1回通級 支援センター:市内在住保育園児対象・隔週通級	相談員の市内幼稚園・保育園・こども園への巡回相談 1人につき45分間の言語指導。 岡崎幼稚園:市内在住幼稚園児対象・週1回通級 支援センター:市内在住保育園児対象・隔週通級
事業費(千円)	6,510		

Plan

事業名	特別支援教育推進事業(幼稚園)			事業類型	法定(裁量含む)	実施計画	○	区分	継続
予算科目	一般会計	10 款	1 項		3 目	事業1	318	事業2	496
担当部署	部	教育委員会事務局			課	幼児教育課			
総合計画体系	めざすまちの姿	1 ひとが育つまち			基本計画	1-③子どもの可能性を伸ばす			
事業の目的	幼稚園における生活や人とのかかわり上の困難を改善・克服するために支援員を配置し、個に応じた支援を行う。(学校教育法第8章)								
事業の概要	公立幼稚園各園の状況に応じて支援員を配置する。 専門家による巡回相談を実施する。								

Do

事務事業評価

平成29年度	事業実績		事業費(千円)	当初予算額	決算額
	軽度の発達障害がある園児の個別支援を目的として、各幼稚園に支援員を配置した。また、対象児への具体的な支援の手立てや保護者との連携の仕方等についてのアドバイスを行う巡回相談員1名を配置した。		財源内訳	9,736	8,647
			国庫支出金	4,866	0
			県支出金	0	0
			市債	0	0
			その他	0	0
		一般財源	4,870	8,647	

Check

成果指標	成果指標名(単位)			H28実績	H29目標	H29実績	H30目標
	巡回相談員の園への訪問回数			18	18	18	18
事業の評価	判定		判定理由				
	必要性	A	幼稚園生活において困難をかかえる園児が増えている。				
	有効性	A	園児へのより良い支援ができています。				
	効率性	A	事業の目的達成のためには、支援員や巡回相談の減は困難。				
総合評価	A		幼稚園生活において困難をかかえる園児の安定につながっている。				

Action

今後の方針	内容	
事業費	維持	事業費の縮小は、支援が必要な園児の安定に支障をきたす。

実施計画

年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容	公立幼稚園に10人の支援員を配置する。 公立幼稚園・保育園:浜名特別支援学校のコーディネーター10回 公立幼稚園:スクールカウンセラー12回	公立幼稚園に10人の支援員を配置する。 公立幼稚園・保育園:浜名特別支援学校のコーディネーター10回 公立幼稚園:スクールカウンセラー12回	公立幼稚園に10人の支援員を配置する。 公立幼稚園・保育園:浜名特別支援学校のコーディネーター10回 公立幼稚園:スクールカウンセラー12回
事業費(千円)	29,208		

Plan

事業名	特別支援教育推進事業(小中学校)			事業類型	法定(裁量含む)	実施計画	○	区分	継続
予算科目	一般会計	10 款	1 項		3 目	事業1	231	事業2	496
担当部署	部	教育委員会事務局			課	学校教育課			
総合計画体系	めざすまちの姿	1 ひとが育つまち			基本計画	1-③子どもの可能性を伸ばす			
事業の目的	学校における生活や学習上の困難を改善・克服するために、支援員を配置し、個に応じた支援を行う。 【学校教育法 第81条】								
事業の概要	①小・中学校の状況に応じて支援員を配置する。 ②専門家による巡回相談を実施する。								

Do

事務事業評価

平成29年度	事業実績	当初予算額		決算額	
		事業費(千円)	28,712	28,165	
①小学校24名、中学校6名の支援員を配置。 ②専門家による延べ、15回の巡回相談を実施。	財源内訳	国庫支出金	0	0	
		県支出金	0	0	
		市債	0	0	
		その他	0	0	
		一般財源	28,712	28,165	

Check

成果指標	成果指標名(単位)			H28実績	H29目標	H29実績	H30目標
		巡回相談員の訪問回数			11	17	15

事業の評価	判定		判定理由			
	必要性	A	通常学級に在籍するLD,ADHD,自閉症スペクトラムといった発達障害を抱え、個別の支援を必要とする児童生徒が増加しており、不登校や粗暴行為等の2次障害の発生を防ぐためにも、なくてはならない事業である。			
	有効性	A	巡回相談員が訪問し、学級担任や学校が助言を受けることによって個に応じた指導が充実し、該当児童生徒のみならず、他の児童生徒も落ち着いた環境で学習できる。			
	効率性	A	対象児が増加する傾向にあつては、支援員の人数は決して十分とは言えないが、研修会やOJTによる支援員のスキルアップを図り、配置を工夫することで、該当児への支援を行っている。			
	総合評価	A	巡回相談員の訪問や支援員の配置により、個別の支援を必要とする児童生徒が落ち着いて学習できること、他の児童生徒も落ち着いた環境で学習できることにより、児童生徒の理解度、定着度が高まることが期待できる必要な事業である。			

Action

今後の方針	内容	
事業費 維持	軽度発達障害の児童生徒数の増加に対して支援員数は不足傾向にあり、最低限現状数を維持したい。また、児童生徒が落ち着いて学習できる環境を持続するため、退職教員等、指導スキルの高い人材の確保に努める。	

実施計画

年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
事業内容	①小・中学校の状況に応じて支援員を配置する。 ②専門家による巡回相談を実施	①小・中学校の状況に応じて支援員を配置する。 ②専門家による巡回相談を実施	①小・中学校の状況に応じて支援員を配置する。 ②専門家による巡回相談を実施
事業費(千円)	86,265		